

## ○現在の収容鳥獣と救護状況



獣類	
タヌキ	オス1、メス1
ホンシュウジカ	オス1、メス1
キツネ	オス1
ノウサギ	オス1
猛禽類	
トビ	13
ノスリ	5
フクロウ	7
オオタカ	1
チョウゲンボウ	2
その他の鳥類	
オオハクチョウ	27
カンムリカイツブリ	1
コハクチョウ	1
マガン	1
ヒシクイ	1

現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の収容状況を右上の表に示します。

平成22年の3月23日から5月22日の間にセンターに搬入された野生鳥獣はフクロウ(7)、オオハクチョウ(3)、ノスリ(2)、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、カラス、ゴイサギ、トラツグミ、キジ、ヤマシギ、マガモ、カンムリカイツブリ、コルリ、キビタキ、タヌキ、キツネ、アナグマの18種27個体でした。

この期間の過去の救護記録から見てもオオハクチョウの北帰行中の救護例が目立つくらいで、救護の件数そのものは少ない時期ですが、今シーズンはオオハクチョウの救護件数が例年と比べてかなり少なく、オオハクチョウにとっては今年の旅立ちは順調だったようです。

すでに今年もコギツネやフクロウのちびっ子たちが持ち込まれてきていますが、これから6・7月にかけて本格的なヒナ・幼鳥の搬入シーズンに突入します。決して誤認保護などの事故が起こらないように、ヒナやちびっ子の発見時には特に現場の状況をよく見極めるようにしてください！

## 野生動物ピックアップ カンムリカイツブリ (*Podiceps cristatus*, Great Crested Grebe)



“素晴らしい羽毛飾りのカイツブリ”という英名どおり、夏羽ではとてもきれいな飾り羽根が頭と頬に現れる水鳥です。この個体は4月14日に盛岡市内の住宅街で衰弱していたところを保護されました。本来は海や川、沼などの水場でカモなどの他の水鳥に混じり、魚やエビなどの水中の生き物を食べて生活しているのですが、どうして住宅街に迷い込んだのかは分かりません。

救護された当初は衰弱が激しく、立ち上がるのもやっとという状態でしたが、今は冷凍のワカサギを食べながらオオハクチョウと一緒に野生に戻るための体力作りの最中です。

## 救護症例ートリモチにかかったキツネの子

先のページでヒナやちびっ子の誤認保護について少し触れましたが、鳥獣保護センターに持ち込まれたコギツネを例にして、幼くして親から離された野生動物について紹介します。



今回紹介するのはかわいい写真で表紙を飾ってくれたコギツネの「コンコン」です。4月の中旬、とある農家に仕掛けられたネズミ捕りのトリモチにいたずらを仕掛けて引っかかり、身動きが取れなくなった状態で保護されました。まだうっすらと膜を被ったようなうぶ毛のコギツネで、まるで柴犬の子犬そっくりでした。身動きが出来ないほどべったりと取り付いたトリモチに加え、空腹と寒さ、捕まったショックのせいでぐったりとしていました。とにかく少しは自分でも歩けるようにしなければトリモチを取り除く事から始めました。

トリモチの除去には刺激のない乾燥した粉末を使います。トリモチの付いたネバネバの部分に粉末をまぶし、ネバネバの表面を粉で固めるようにして少しづつトリモチをこそぎ取ります。身近なものでは小麦粉、きめの細かい乾燥した砂が使えます。「コンコン」の場合はコギツネが身動きできないほど大量の付着だったので、土に埋めるようにして数人がかりでトリモチをこそぎ落とし、固まって束になってしまった毛をカットする必要がありました。



「コンコン」にとってこの処置はかなり大変だったと思いますが、すっかり観念してくれたおかげで比較的体力の消耗も少なく済み、保温箱の中でおとなしく休んで人工乳や鶏肉などの餌にもすぐに慣れてくれました。しかし、数日して

体力が回復してきた頃には、「コンコン」は大変な状況に陥っていました。母親とはぐれてしまった今、自力で餌も取れず、野外の夜の寒さにも耐えられないこの幼さでは野生に帰れず、また人間の手の中ではまともなキツネとして成長する事も出来ないのです。

コギツネは母親や兄弟と一日中過ごし、仲間同士の遊びやケンカを通じてキツネとしてのコミュニケーションや餌の獲り方など生きていくための生活の力を身につけていきます。しかし、親や兄弟からはぐれてしまった「コンコン」に私達が餌の獲り方やキツネ同士の付き合い方を教えてあげることはできません。野生動物だからといって、体さえ立派に成長すれば野生で生きていけるというわけではないのです。

「コンコン」の場合、いたずらの代償はかなり高くついてしまったわけですが、野生の生き物にとって実の親というのは他に取って代わる事の出来ないかけがえのない存在です。オオハクチョウでは、親からはぐれてしまった幼鳥は群れの中で庇護が受けられずにいじめの対象になります。カモシカは親と数年間一緒に過ごしながら自分のなわばりを形成し、独立していきます。一日に何十回も餌を運ぶツバメやスズメの親代わりなどよほどの努力が無い限り成功しません。

ヒナや動物の子供を目にすると、どうしても何かしてあげたいという気持ちになりますが、それが本当にその子に対して適切な事なのかの見極めが最も重要です。親心があればこそ心を鬼にすることも必要です。子取り鬼にならないようにしてください、親が鬼のような目であなたを見ていますよ!





### 野生動物ピックアップ アナグマ (*Meles meles*, Badger)

盛岡市で救護されたアナグマです。交通事故にあったタヌキとして持ち込まれたのですが、タヌキよりもずっと体重が重く(7.5kg)、ずんぐりむっくりな体形と妙に白っぽい顔つき、正体はアナグマでした。タヌキとアナグマはよく似ていますがタヌキはイヌ科、アナグマはイタチ科でアライグマ同様に全く違う動物です。

救護されたときはショック状態で意識不明、小刻みに痙攣している状態でしたが、骨折や内臓の損傷などは特に認められず、ショックの処置をして保温しながら様子を見ていたところ数時間後にはもともと動き始め、次の日にはセンターからけろっとして退院して行きました。

しかし、小さな目にずんぐりした体形、目を覚まし始めた頃のもの憂げな寝返りや翌日のすっきりした回復ぶりなど…、まるで酔いつぶれて保護されたおっさんのようなアナグマでした。



### フクロウの成長記録



4月22日:約300g



5月1日:約500g



5月8日:約540g



5月17日:約600g  
お友達も増えちゃった!!

### クイズ! 僕だあれ?!



ヒント:  
何かの鳥のヒナです。この写真の時点で体重180g。およそヒナらしくない精悍な顔つき、鋭い嘴とツメ。鶏肉をががつと食べた直後で、喉の付け根(そ嚢)が膨らんでいます。眼やユビの色、形などに注目して…。

(答えは次のページ)

## 岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時30分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見ることが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局、総合支局、地方振興局保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえようお願いします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

## センターへのアクセス

### 注意事項

現在、日本国内での口蹄疫の発生に伴い鳥獣保護センターへ来場する車両は畜産研究センター正門で車両の消毒を受け、畜産研究センターの敷地内を通過して入場する必要があります。ご来場の際には事前に電話連絡をし、入場方法について確認してからお越し下さるようお願いします。



### クイズの答え：

右の写真が一週間後のヒナで、幼鳥羽が少し生えています。分からなかった人はもう一度考えてみてください。



このヒナの顔つき、真っ黒な眼の色、黄色くて長い足の指からこのヒナがハヤブサ科のものだと予想されますが、問題の写真の時点ではどれかははっきりと分かりません。

岩手県で確認できるハヤブサ科の鳥はハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウが代表です。上の写真ではやや赤みのある横縞の幼鳥羽が見えるので…、答えはチョウゲンボウでした!

